

つながりの場としてのコミュニティサロンが 地域のソーシャルキャピタルに及ぼす効果

石田朱音

現代の地域コミュニティは希薄化していることが指摘される。住み慣れた地域をつくり出す主体として、地域に期待が寄せられている。地域拠点、および場の例としてはコミュニティサロンやコミュニティカフェと呼ばれる場所が挙げられるが、それらが存在しなかったり活動が活発でなかったりする地域では、そこから派生する新たな場づくりに困難を要することが考えられる。

大東文化大学板橋キャンパスの所在地である板橋区高島平地域には多くのコミュニティサロンが存在している。本研究では、高島平地域におけるコミュニティサロンを研究対象とし、コミュニティサロンがどのように地域コミュニティの活性化を図っているのかを考察する。コミュニティサロンでは多様な人々との出会いがあり、また、他者および地域に対する関心を高める機会を生み出していることが考えられる。こうした場が活発になることで、地域のソーシャルキャピタルにも効果をもたらすと予想されるため、その関係性についても考察する。また、利用者や地域にとってコミュニティサロンはどのような位置づけとなっているのか、どういった点で新たなコミュニティづくりやまちづくりに向けて役立ち、そのうえで、さらにコミュニティを広げていくことは可能か、課題や持続性について考察する。

この目的のため、高島平の地域サロンである地域交流広場ぼうぜの運営者、利用者を対象としたヒアリング調査を実施した。運営者に対しては地域サロンの活動目的や活動状況、運営上の工夫や課題等について調査した。利用者に対しては利用状況やサロンに対する思いを調査し施設利用を通じた人の繋がりの実態を把握した。

調査の結果、コミュニティサロンでは運営者と利用者、また利用者同士の継続的な交流を生み出し、その活動によって人的つながりを広げていることが明らかになった。このことからコミュニティサロンの活動は利用者および地域のソーシャルキャピタルを豊かにしていると考察した。

また、利用者への調査から、サロンの位置づけは人や地域と関わることができる心の拠り所であることが明らかになった。いずれの利用者も、ぼうぜのような場があることに対するありがたみを強く感じていることが受け取れた。このことから地域社会での繋がりが希薄化する中、人々がこういったリアルで繋がることのできる場所を求めていると考察した。

サロンの課題については、活動内容をより具体的に周知することが課題であると明らかになった。また、継続性についてはその時々地域課題をくみ取り、それらに合う方法で

アプローチすることが必要であると明らかになった。